

宮崎県社会福祉審議会 会議概要

- 1 日時
令和5年2月13日（月） 午後1時30分から午後3時まで
- 2 場所
県防災庁舎4階 42号室
- 3 出席者
井上あけみ委員、長田一郎委員、甲斐恵子委員、川崎順子委員、河野雅行委員、川野美奈子委員、倉永慎一委員、斉藤憲一委員、永田照明委員、中武郁子委員、長友宮子委員、中村秀子委員、野津原勝委員、花野典子委員、福山陽子委員、松浦博徳委員、横山雄一委員
- 4 議事
(1) 民生委員・児童委員の一斉改選について
(2) ヤングケアラー実態調査の実施状況について
(3) 令和5年度当初予算について
- 5 要旨
資料に基づき事務局より説明後、質疑応答・意見交換を行った。
概要は、以下のとおり。

【主な質疑内容等】

(1) 民生委員・児童委員の一斉改選について

委員	定数が令和元年度と比べて1名増えているが理由は何か。
事務局	日南市の中心部で世帯数が増加しており、民生委員の過度な負担にならないよう1名増となっている。
委員	人口減少が進んでいるが、今後は、民生委員の数は減っていくのか。
事務局	人口減少により数を見直すことはあるが、1人の民生委員が把握する範囲が広がってしまうため、市町村の意見を聞きながら、慎重に検討してまいりたい。
委員	充足率が100%ではない。民生委員に若い人がなってくれるといいと思うが。
事務局	退職年齢や年金受給年齢の引上げ等により働いている方が多くなっていることから、若い世代のなり手が少ないのが現状である。充足率を上げる取組を行うとともに、地域福祉コーディネーターや社協職員、行政等の関係者全員で地域福祉を守っていく取組が必要であると考えている。
委員	新型コロナの影響もあり、見守りの仕方が変わってきている中で、新任の方は、何をすればいいかわからないという方が多い印象がある。
事務局	新任の方向けの研修等で対応していきたい。

委員	パーセンテージで見ると西都市さんが一番充足率が厳しい状況と思われるが、これについてはまだ進行中か。
事務局	各市町村の充足率は12月1日現在であるが、その後も適任の方がいればその都度推薦をしていく。

(2) ヤングケアラー実態調査の実施状況について

委員	アンケートでは、障がいの種別等は分かるようになっているか。
事務局	身体障がい、認知症、依存症、精神疾患、要介護、知的障がいといった区分がある。
委員	パソコン、タブレット、スマートフォンで入力というのは、学校で入力したのか、個人の所有物で入力したのか。
事務局	学校の正規の時間で説明をし、その後入力してもらっている。なお、小・中学校はすべての生徒に端末が行き渡っているため端末で入力してもらっている。高校については、全員に行き渡っているわけではないことから、端末がない生徒は、紙で提出していただいている。
委員	今回の調査結果を基に、子どもたちを救う手立てを考えていってもらいたい。
事務局	結果を踏まえた上で、必要な手立てを行ってまいりたい。
委員	学校の先生に地域の相談体制等を知ってもらえたら今後の支援に繋がっていくのではないか。
事務局	スクールソーシャルワーカーが各学校にいるため、スクールソーシャルワーカーに相談できる場所は相談して、学校の先生が市町村のどこに相談すればいいか等の周知を図る必要があると考えている。
委員	今回の調査で家族構成は分かるか。
事務局	分かる。最終報告の際に家族構成のデータ等もお示しできると考えている。

(3) 令和5年度当初予算について

委員	令和3年の統計によると、14歳から19歳の子供では、自殺が死因の1位となっている。その背景には、いじめや虐待等、いろんな要因が絡んでいると思う。子どもを守る事業等はあるか。
事務局	教育委員会で子供たちがSOSを出すための講習をやっているようである。福祉保健部では、ワンストップ相談等をしているが、子どもに特化した事業はしていない。